

第6報を書いた時(7月1日)に、世界のCOVID感染者数/死者数は1055万人/51万人、米国272万人/13万人でしたが、ほぼ2ヶ月後の9月12日には2867万人/97万人、米国663万人/19万人と未だに増え続けています。恐れていたように医療保険体制が不十分なインド、ブラジルなどの発展途上国では米国に次いで感染者が増え続けており、インド466万人/7万人、ブラジルは428万人/13万人となっています。おそらく今後インドを筆頭に途上国でも感染は広がり被害も甚大となってゆくのではないのでしょうか?米国ではPCRテストを徹底して実施しており、感染者数はかなり正確であると思われませんが、インドでは多くは診断されていないでしょうから、実際の感染者数はこの数倍、1000万人を悠に超えているでしょう?世界では?感染しても無症状の人は多く、当然ながら未診断の人々は非常に多いでしょうから、やはり優に1億人(つまり70人に一人)が感染していると思われれます。しかしCOVID感染が爆発的に増え、感染ピークの頃には毎日800人が亡くなったニューヨークでさえ、クオモ州知事の指導力により、市民が密を避け(social distancing)、マスク(アメリカ人はマスクが大嫌い)を付け、手洗いを徹底することでCOVID感染は制御されつつあります。このように人々の意識変化と個々の注意深い感染予防対策が感染拡大を阻止する力があることは私たちを勇気付けてくれます。

パンデミックとなって、小児科医ですから、抵抗力の弱い子供達、特に乳幼児が一番の犠牲者になるのでは?と心配していました。日本での小児COVID感染症の状況、そして症状特に重症化するかなどは判りませんが、世界最大のCOVID感染者を抱えて苦悩する米国の小児科学会からの報告を調べました。9月9日の報告ではCOVIDに感染した小児は何と513,415人、つまり HALF ミリオンです!しかしこどもではCOVID感染は大人と違って重篤ではないと思われれます。小児10万人のうち680人が入院し(1.9%)、小児の死亡は103人で、死亡率は0.02%です。これはCOVIDの全死亡の0.07%に過ぎません。こどもでは80%が無症状か軽い症状、15%は比較的思い症状、5%は酸素吸入、さらには人呼吸管理が必要と報告されています。これは嬉しい誤算ですが、しかし死亡例がいることは深刻であり、基礎疾患のあるこどもたちは十分な注意が必要です。今年の冬には季節性インフルエンザが流行するのは当然ながら予測されています。そして米國小児科学会は小児のインフルエンザワクチン接種は不可欠であるとして、例年にも増して強く勧奨しています。COVIDとインフルエンザはともに呼吸器感染ウイルスであり、こどもでは臨床的にはほぼ区別できないと考えられます。昨年末に当院を高熱で受診し、診断キットによりインフルエンザAと診断し、タミフルを処方した幼児(生来健康、インフルエンザワクチン未接種)が、その後12時間以内に非常に重症化したので、私はインフルエンザも決して侮れないと強く思っています。ですからコロナ禍であるからこそ、生後6ヶ月以上のすべての子供達にインフルエンザワクチン接種が必要と思います。以上から私は可能な範囲でかかりつけの子供達のインフルエンザ予防接種を受け付けたいと思います。当院は広いスペースを活用し、院内感染を予防する努力を払っています。しかしコロナ禍の最中ですから全部は難しいと思いますので、予約がいっぱいになった場合は、申し訳ありませんが、他の医療機関をご利用ください。

世界、そして日本で普及している多くのワクチンは、麻疹ワクチンを筆頭として非常に有効性(感染防御率9割を超えている)が高いものです。しかしインフルエンザワクチンは残念ながら、米国CDC(世界的な感染症制御機構)の発表では昨年度インフルエンザワクチンの有効率は39%でした、しかし外来受診、入院、そして死亡例を減らす効果は明らかであるとされています。CDCによると10万人当たりの入院数をCOVIDと季節性インフルエンザを比較すると、0-4才8.0/93.7 5-17才3.7/24.4 18-49才59.2/35.1 50-64才148.6/90.5 65才以上297.6/180.4でした。小児では圧倒的にインフルエンザの方が入院する確率が高いこ

とが分かります。米国小児科学会はこの冬にインフルエンザが流行し、同時に二つのウィルスがこどもに感染する可能性があることを指摘しています。その場合、共に呼吸器感染を起こしますので重症化する可能性があります。私は 30 台前半にカリフォルニアの UCLA 小児科に 2 年間留学し、米国の小児医療のレベルの高さを肌で感じ、今も米国小児科学会のホームページを読み、その見識の高さを信頼しています。米国小児科学会は子供達の未来のために、乳幼児健診、麻疹など従来からの予防接種をきちんと受けるように、そして上記のような理由からインフルエンザワクチン接種を強く勧奨しています。COVID ワクチンの開発を世界中が期待している現在、多くの方はワクチンの意義をすでに実感しています。皆さん明けない夜はありません。これから清々しい秋です、クリニックの壁に多くの公園案内を張り出していますが、親子でおにぎり持って公園に繰り出し、思い切り遊び回りましょう。